

第四次川越市教育振興基本計画 第1章総論-1 審議会意見【第二回審議会R7.8.18】

該当項目	指摘事項	担当課	対応状況
5 教育を取り巻く社会状況について	(3)グローバル化の進展について。海外から受け入れるだけでなく、海外へ出ていくこともグローバル化の一つなので、そのことも踏まえた表現に変えたほうが良い。	教育センター及び教育総務課（文案を再検討）	埼玉県教育振興基本計画P37を参照し、修正。
5 教育を取り巻く社会状況について	全体的に数字と漢数字混在しているため、統一したほうがよい。	教育総務課（全体的に再確認）	P4及びP6について修正。
5 教育を取り巻く社会状況について	文章表現だけで具体的なエビデンスの無い項目があるが、市が把握している数値等で追加できるものはないか。（前半は市の個別の数値が多いが、後半は全国的な状況のみを入れている。）	教育総務課再確認	(3)グローバル化の進展に関して、本市外国籍市民人口について総合計画と掲載時点が異なっていたため統一。 (4)誰一人取り残さない社会的包摂の推進に関して、本市の情報を追記。 (5)教職員の働き方改革の推進に関して、本調査は川越市と調査対象期間、調査方法や項目が異なり、単純に比較できないため、掲載しない。（6第三次計画の成果と課題-施策5教育の質を高める環境の充実に既に掲載済）
5 教育を取り巻く社会状況について	第三次計画の「家庭・地域社会の変化」から「家庭・地域の状況の変化とつながりの希薄化」と表現を変えている意図はあるか。	修正不要	教育委員会においても、地域のつながりの希薄化は日々肌で感じていて、高齢化や共働き世帯の増加の影響等で地域の担い手不足が深刻化しており、地域のつながりを再構築する施策を打っていく必要があると感じているため。
5 教育を取り巻く社会状況について	(5)誰一人取り残さない社会的包摂の推進について。特別支援教育を受ける児童生徒数を59.9万人と表記しているが、一方で6頁下段の「特別支援教育」の注釈では、特別支援学級や特別支援学校に通う児童生徒以外にも含めた広い意味での特別支援教育を説明している。59.9万人の示す数字と注釈の内容に整合性がないと思われるか。	教育センター	児童生徒数については、文科省資料「R5特別支援教育の充実について」から引用、最新の数値に変更。特別支援教育の語句については、黄色マークは文科省ホームページより抜粋。整合性を図るため、注釈を修正。
5 教育を取り巻く社会状況について	(5)誰一人取り残さない社会的包摂の推進について。「平成26年からの10年間で～」は平成25年からの10年間ではないか。	学校管理課及び教育総務課（再確認）	「令和5年度で～」なので「平成26年からの10年間」という記載で問題ないとする。（文科省資料「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」より引用）
5 教育を取り巻く社会状況について	(6)教職員の働き方改革の推進について。部活動地域移行、地域展開どちらが正しいか。	教育指導課	P34の文言を「地域展開」に修正。 令和7年5月に、文科省審議会「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」最終とりまとめにおいて、「地域展開」とする方針が示されたため。
5 教育を取り巻く社会状況について	(6)変化に対応した生涯学習の推進及び文化財の保存と活用について、文化財の活用や情報発信に関する記述を増やした方がよい。	文化財保護課	当該項目に加え、「第二章施策9-(1)-①文化財の保存と活用の推進」欄に情報発信に関する記述を追記。
6 第三次計画の成果と課題について	P8 新型コロナウイルスの影響について。前計画の際、影響がないよう計画している。また、簡単な表現で書かれてしまっている。コロナを経て、事業中止ばかりではなく、見直しもしている。その点を追記するべき	学校管理課、地域教育支援課、中央公民館、中央図書館、博物館（各課一程度文案を検討） ※文量を増やす予定ではないため、最終的に教育総務課で調整	文案を修正。
6 第三次計画の成果と課題について	P8 施策1 英語指導助手について。年間4,000日は、小学校何日、中学校何日とわかりやすく表記できないか。	教育センター	学校数が違うため、校種別の表記が難しく、全市立学校への配置日数の推移を記した。
6 第三次計画の成果と課題について	P8 施策1 英語教育について。市立高校の記載も入れてよいのではないか。また、CEFR A1レベルという表現でよいのか。A2を目指さないのか。	教育センター	訪問日数については、市立高校、市立特別支援学校日数も入れた合計に変更。 国の第4期教育振興基本計画が、中学卒業段階でCEFR A1の6割達成を目指していることを踏まえ、本計画においてもA1は目指しています。
6 第三次計画の成果と課題について	・P8 新型コロナウイルスの影響について。最後の行「出来る」はほかの箇所と同じく「できる」で統一 ・P8 欄外 CEFRの用語解説について、文末「。」が抜けている。 ・P10以降のグラフの表題フォントを統一する（資料1、2と3で異なるなど）。 ・P11 資料2 R1教員のグラフの色が、右下の要素とグラフで異なる。 ・P15 資料5 ⑤いじめ相談直通電話グラフについて、「どちらでもない」のグラフの柄が、下の要素とグラフで異なる。	教育総務課	5点修正。
6 第三次計画の成果と課題について	グラフについて、白黒で良いのか。見えづらくないか。	教育総務課再確認	HPではカラーで掲載するが、白黒印刷も見据え、グラフの色や種類を変更。
6 第三次計画の成果と課題について	P9 施策1 ICTの整備状況について。ICTが活用されたデータ等数値的なデータを入れたほうが良い。	教育指導課	ICT活用に係るエビデンスとして、全国学力・学習状況調査質問紙調査におけるICT機器の学習での活用頻度について追記。なお、活用頻度の追記に合わせて、課題に関する記述についても環境整備に基づく活用推進を課題とする旨に表記を変更。
6 第三次計画の成果と課題について	P13 施策2 教育相談に関する文言の説明とP15のグラフが一致していない。「※」以降が不要ではないか。	教育総務課修正	「※」以降削除。
6 第三次計画の成果と課題について	P13 施策2 教育相談について。各種事業を推進することは良いが、保護者目線からすると、（各相談員やカウンセラーが非常に親身であるがゆえに）学校から見捨てられている印象を受けてしまう。教員の教育相談力を高めるといった観点などを考慮して文案を再検討してはどうか。	教育センター	文章修正。
6 第三次計画の成果と課題について	P13 施策2スクールカウンセラーの用語解説について、市立高校にも配置されている点を補足した方がよい。	教育センター	用語解説修正。
6 第三次計画の成果と課題について	P13 施策2欄外 スクールカウンセラーの用語解説について、小学校にも配置はあるため、「中学校に県から配置」とあるが「小・中学校に県から配置」ではないか。	教育センター	用語解説修正。
6 第三次計画の成果と課題について	P14体カテストは数値だけなので、グラフ化できないか。	教育指導課及び教育総務課	グラフに変更。
6 第三次計画の成果と課題について	P15のグラフで工夫が必要。（もう少し見やすくすることはできないか？）	教育総務課グラフ再検討	当初作成時点から改善を図った結果、当該グラフとなったため、現行のままとさせていただきます。

第四次川越市教育振興基本計画 第1章総論-1 審議会意見【第二回審議会R7.8.18】

該当項目	指摘事項	担当課	対応状況
6 第三次計画の成果と課題について	P17、18 施策3 将来の夢や目標について。文章に記載の数値とグラフが一致していない。	教育指導課文案またはグラフ修正	文章中の「令和6年度は77.7%」については、小中の数値を平均化した数値となっているため、グラフに数値を追加。
6 第三次計画の成果と課題について	P19 施策4 一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実について。学びの場を選択できることは良いことであるが、学びの選択だけでなく、その子にフォーカスする教育といった視点で文章を変えた方が良い。	教育センター	文章修正。
6 第三次計画の成果と課題について	P19 施策4について。多様なニーズをどのように捉えているか。まず、その定義が必要ではないか。外国籍児童生徒への対応もあるのではないかな。	学校管理課	多様なニーズについては、県の教育振興基本計画においても定義付けはされていないため、定義は明記しない形で対応したいと考えます。ただ、外国籍児童生徒への対応についてはご指摘のとおりであり、第三次の施策の柱にも取り上げられているので、語学指導補助員や日本語指導員の配置に関する記述を加えた。
6 第三次計画の成果と課題について	P21 施策5について。ページ番号がない。	教育総務課修正	ページ番号がみえるよう修正。
6 第三次計画の成果と課題について	P21 学級編成→学級編制 が正しい。	教育総務課	語句修正。
6 第三次計画の成果と課題について	P23 施策6 小・中学校空調設備設置の推進について。文章が紛らわしいので表現を修正したほうが良いのではないかな。	教育財務課	文章修正。
6 第三次計画の成果と課題について	P25 施策7について。全体的に具体性に欠ける。他の施策に比べて分量も少ない。	地域教育支援課	文章修正。
6 第三次計画の成果と課題について	P25 施策7について。コミュニティスクールは導入されているので、「導入の推進」という表現は変えたほうが良いのではないかな。	学校管理課	表現の精査をしたところ、P25の「コミュニティ・スクールの導入の推進」の表現については、第三次教育振興基本計画の目標のため、修正は不要であると考えます。次期計画に向けては、「コミュニティ・スクールの推進」に改めていきます。
6 第三次計画の成果と課題について	P25 施策7について。こども会やジュニアリーダー支援に関する記載も入れてほしい。	地域教育支援課	文章修正。
6 第三次計画の成果と課題について	P26 施策8について。図書館について、講座や展示の表現を入れるとよいのではないかな。博物館について、蔵造り資料館は耐震化工事中の状態ではないかな。完了しているように読み取ってしまうので変えた方がよい。最終段落について、デジタルアーカイブの充実に関する記載はしないかな。	中央図書館、博物館	中央図書館・博物館ともに文章修正。
6 第三次計画の成果と課題について	P26 施策8について。市立小学校・中学校・高等学校・特別支援学校「図書室」等とあるが、図書室という呼び名は学校現場であまり使用しないため、「学校図書館」とすべきでないかな。	中央図書館、教育指導課	学校図書館に変更。
7 その他の意見	全体として、「こども」を平仮名で表現することは非常に良いと思うが、これに至った経緯について、確認したい。	教育総務課（全体的に再確認）	本市における行政文書において「こども」表記を活用していくことが推奨されているため、「こども」と表記することで考えている。固有の事業名については「子供」や「子ども」と表記されるものもあることをご了承いただきたい。全体的な見直しを行い、「こども」で統一したが、P25の「子供」については個別の事業名であるため、修正しない。

第四次川越市教育振興基本計画 第1章総論-2 審議会意見【第二回審議会R7.8.18】

該当項目	指摘事項	担当課	対応状況
Ⅱ計画の基本方針全体	AIに関する記述が出てきていない。5年間を見据えると表現を入れるべきではないか	教育指導課及び教育総務課	基本理念の説明文を変更。なお、第2章施策1-(4)-①においても生成AIという基準を想定している。
基本理念	基本理念が「ともに学ぶ」という視点で良いのか。子どもたちにとっては、自分事として捉え、考えていくことが必要だと考える。AIに関する視点もなかったため、子どもたちへのメッセージとしては乏しいと感じる。基本理念について、子どもの意見を吸い上げずに作っている印象を受ける。今回の計画では難しいかもしれないが、子どもの意見を聞く場を設けてほしい。	教育総務課	第一次から第三次計画で行ってきた「生きる力」を育むことは基本的なことであり、それを継続していくことは当然大事である。それに加えて、今後は社会教育等も含め人と交わる必要があることから、ともに学ぶという文言を入れている。子どもの意見を吸い上げるといった政策的な人員配置は今後検討が必要だと考えている。
基本理念	説明を聞けば、AIなどの活用を見据えていることなどが読み解ける気がするので、基本理念の説明文を変えてはどうか。	教育総務課	指摘通り修正
3つの目標	3つの目標②「学びを保障する」について、下の文章に「質の高い学びを確保する」とあるため、統一してはどうか。または、環境整備という視点でいうと、「支える」という表現でどうか。	教育総務課	指摘通り修正
3つの目標	3つの目標② 校務DXについて、ここで初めて出る語句であるため、脚注もしくは巻末の用語集などで説明が必要と思われる	教育総務課	「校務DX」をよりわかりやすく「ICT」という言葉に置き換えて対応
施策体系	施策3の名称について。なぜ「学びへの主体性」という文言が加わったのか。表現が変わったのであれば、細施策が変わっていないとおかしいのではないか。	教育総務課	元のままに戻す形で修正
その他	施策5 教職員の働き方改革について。教員が一番期待している項目なので、各論に入ったときにわかるように意識してほしい。	学校管理課	各論で対応
施策体系	施策5 市立特別支援学校の充実について。施策の柱の名称を再検討しても良いのではないか。	学校教育部	この点について問題意識を持ってはいるが、具体的な案を示せていない。現状は今回の案とし、再検討する
施策体系	施策8 公民館について。細施策のこどもの居場所づくりがなくなった理由はなにか。こどもの居場所を提供しているというメッセージを発信する意味でも、この細施策は無くさないほうが良いのではないか。	中央公民館細施策再検討	公民館では、従前から青少年教育の充実を図り、こどもたちへの学習機会の提供や子どもサポート事業の支援を行ってきた。これまでの取り組みが地域に根付いていること、また、公民館、図書館、博物館の社会教育施設全般が全世代に開かれた場であることを踏まえ、地域の教育の向上を目指す観点から、こどもの居場所という二語は施策8-(1)-②に統合する。
その他	施策8 生涯学習施設全体として、個々が頑張っても意味がない。ここに行けばこれができるという総合案内的な役割が必要であると考え。	-	事務局としても、総合的なものとして使えることが必要と考える。工夫や改善を検討する。
施策体系	施策9 文化財の保存と活用について。第三次計画と細施策に変更はないが、理由はあるか。歴史遺産という言葉盛り込んでほしい。デジタル活用の文言を入れたほうが良いと考えている。	文化財保護課	・「歴史遺産」は、細施策(2)①に盛り込み、細施策名に使用する。 ・「デジタル活用」は、細施策ごとの「細施策の方向性」の該当箇所に盛り込む。
全体	「一人ひとり」と「一人一人」、「持ち」と「もち」、「歴史的遺産」と「歴史遺産」など表現が統一されていないものがあるので、修正した方がよい。	教育総務課	「一人ひとり」と「一人一人」、「持ち」と「もち」修正要。→「一人ひとり」「もち」で統一する。 歴史的遺産、歴史遺産については9-(2)-①と合わせて「歴史遺産」で統一する。

第四次川越市教育振興基本計画 第二章 審議会意見【第三回審議会R7.10.6】

	担当課	指摘事項	対応状況もしくは回答内容
全体に係る指摘	事務局(教育総務課)	・前回に比べて、ページが増えて分量が増えてしまうのではないか。	・レイアウトとして見やすくするため、細施策ごとにシートをわけている。分量は増えてしまうがこの形で行きたいと考えている。
	事務局(教育総務課) 【第一章総論】	・2ページ等の「誰一人取り残さない」は「誰一人取り残さない」ではないのか、再度検討していただきたい。	・国計画(P16)及び県計画(P27)においては、「誰一人取り残さない」との表現であることから、本市計画も「誰一人取り残さない」に変更する。 ※SDGsの理念については、「誰一人取り残さない」であるため、変更しない。
	全担当課 【第二章各論】	①指標に具体的な数値が出てきているが、その妥当性については、根拠を持って説明できるようにしていただきたい。 ②表現は市民や子どもも読める表現を意識していただきたい。	①【全担当課】 別途、全担当課に対し指標に関する確認を行い、参考資料を作成。 ②用語解説をページ下部に設けることで、市民や子どもも読めると考えているが、各細施策で表現を変える必要があれば修正することとした。
	教育指導課 教育センター 【施策1】	①各指標において、全国学力調査等、学年を特定してしまう調査があるが、それを指標にすることが適切か検討いただきたい。 ②学校任せになってしまうように感じてしまう細施策がいくつかあると感じている。教育委員会がフォローしていただく含みを持たせる文言を記載すべきである。	①(教育指導課)該当学年のみになってしまうが、国が行っている調査であり、全国と比べ本市の状況を測ることのできる調査であることも含め、適切であると考え。 (教育センター)CEFR A1の指標は確かに特定の学年(中3)になっているが、国も県も同様の指標をとっているため、適切であると考え。 ②(教育指導課)細施策シート修正済(施策1-1)-① (教育センター)「施策1-3)-①英語指導助手の配置事業の充実」では、「各学校を訪問して指導及び支援を進めます。」という表現をしていたり、研修に係る内容は教育委員会が行う記述になっていたりと、文言は訂正する必要がないと考える。
	教育指導課 教育センター 中央図書館 学校給食課 【施策2】	①不登校の子どもたちは、だんだんと豊かな心と健やかな体が蝕まれてしまうものである。そのため、この施策2に施策4に記載されている不登校に関する内容を記載していただきたい。 ②各施策の取組が記載されることで、より意思が感じられるようになった。前回の計画では、施策に指標をぶら下げていたが、今回からは細施策に指標をぶら下げた。これはよいことだと考えるが、細施策に合っていないものもあるのではないかと考える。 ③「一人一人」や「考え議論する道徳」等の表現は統一した方がよい。 ④「自己有用感」と「自己肯定感」はもう一度見直すべき。	①(教育センター) 不登校支援の推進は、登校が難しい児童生徒への学びの保障や社会的自立を目指した取組であり、「豊かな心と健やかな体」との相互の関連は踏まえつつも、目的や性質が異なるため、記載を分けた経緯がある。一人ひとりの状況に応じた支援に活かすことで、より多様な支援につながると捉え、第4次では施策4にしたいと考える。 ②(教育指導課) 指標については各種調査等から細施策に合った指標を設定していると捉えている。 ③(教育指導課) 「考え、議論する道徳」については、細施策シート修正済 ④(教育指導課) 細施策シート修正済
全担当課 【施策4】	・細施策の順番は、特別支援教育に係る細施策が最後にあつた方がいいのではないかと考えている。	・(教育センター) 多様な教育的ニーズには、国や県が推進している「インクルーシブ教育システムの構築」がかかわっている。川越市としても特別支援教育が重要であると認識しているため、県の教育振興基本計画と同様に、細施策をこの順番で入れている。	

第四次川越市教育振興基本計画 第二章 審議会意見【第三回審議会R7.10.6】

施策	施策の柱	細施策	担当課	指摘事項	対応状況もしくは回答内容	
施策1 確かな学力の育成	(1) 学力向上の推進	①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進	教育指導課			
		②ICT活用の推進	教育指導課			
		③家庭学習の充実	教育指導課	①1日あたり1時間以上勉強で、川越市としてはよいと考えているのかは、よく検討していただきたい。 ②細施策の内容が、周知で終わっていると、周知の後は学校任せになっているように感じてしまう。例えば、ICT端末の中にアプリを入れるなど、教育委員会としての具体策を何か実施することがわかる文言があってもよいと考える。 ③経済的に大変な家庭においては、家で勉強できる環境がなく、子どもも忙しくなかなか勉強の時間を作るのが難しい家庭がたくさんあると感じている。この細施策を家庭にさせていくのは、難しいものだと考えている。	①③1日1時間以上の勉強を1つの目安(指標)としていきたいと考えている。 ②ご指摘を受けた教育委員会としての具体策については検討を進めているが、具体的な策については定まっていないため、そのような表現は記載していない。	
	(2) 校種間連携の推進	①幼稚園・保育園・認定こども園・小学校の連携	教育指導課			
		②小中一貫教育の推進	学校管理課	・目標値として、100%でないが、これだと学校ごとに差が出ることを認めている、目指していないと読み取れてしまうので、100%でなくてはいけないのではないか。	・将来的には100%を目指した取組ではあるが、5年間という期間の中で現実的な目標値として設定したため「100%」とは設定していない。また、目標値を変更した。	
	(3) グローバル化に対応する教育の推進	①英語指導助手の配置事業の充実	教育センター	・細施策の順番として、①と②は反対にしてもいいのではないかと考える。	①は、全市立学校を対象として、「グローバル化に対応する教育の推進」を行う上で土台となる指導体制の充実のために行う。 ②は、①の取組も踏まえ、小・中学校の英語教育の充実のために行う具体的な内容について掲げる柱となる。そのため、①→②の順番で記述することについて問題はないと捉える。 国の教育振興基本計画の目標4「グローバル社会における人材育成」の基本施策「外国語教育の充実」でも、英語指導助手も含めた人材配置などの指導体制について先に述べられている。 他市(越谷市、川口市、横浜市)の教育振興基本計画にも、英語教育に係る具体的な取組の前に英語指導助手(語学指導助手)の配置充実に述べられている。 このことから、①→②の順で問題ないと捉える。 また、事務局として細施策の順番に意味を持たせているわけではないので、変更の必要はないと考えます。	
		②小学校・中学校英語教育の充実	教育センター			
	(4) 学校教育の情報化の推進	①情報活用能力の育成における情報技術の活用および特性の理解	教育指導課	①指標90%は高すぎないか。 ②AIの活用に関連して、近年どんどんこれによって世の中に大きな影響を及ぼしている。このAIについて、この細施策でなくても良いが、具体的でなくともどこかで触れるべきだと考えている。	①今後の重要性を考え達成したい目標として設定した。 ②次期学習指導要領では情報活用能力の定義の一つに「生成AI等の基本的な仕組み等を理解」が含まれており、生成AIの活用は情報活用能力の育成の内容の一つとしてとらえている。 ・【その他担当課による修正】細施策の名称変更(変更理由)変更前の「情報活用能力の育成」は、次期学習指導要領に向けた論点整理において、情報活用能力の3つの要素からなる。細施策①は「情報技術の活用」と「情報技術の特性の理解」が本細施策にあてはまるため名称を変更した。	
		②情報セキュリティ・モラルに関する資質・能力の育成情報技術の適切な取扱い	教育指導課	・①「情報活用能力の育成」とは別にこれを取り出して細施策にしている理由は何か。	・各校の現状を踏まえ、情報セキュリティ・モラルが重要であると教育委員会として考えているため。 ・【その他担当課による修正】細施策の名称変更(変更理由)次期学習指導要領に向けた論点整理において、情報活用能力の3つの要素のうち「情報技術の適切な取扱い」が本細施策にあてはまるため名称を変更した。細施策①②を合わせて「情報活用能力の育成」となる。	
		③教育の情報化に関する推進体制の充実	教育指導課	・「サポート」について、学校現場のサポートが必要な職員のスキルも上がってきており、必要でなくなってきた部分もあるため、予算もあるので、不必要な部分を削ることも考えていっていただきたい。	・デジタル技術が進むほど、安全にICTを活用する必要があるため、包括的なサポートから局所的に必要なサポートに向けて取捨選択することを検討していきたい。	
		④ICT環境の整備	教育指導課	・目標値の「6」とは何か。指標の説明がわかりづらい。	・目標値に「整備済項目」を追加。	

第四次川越市教育振興基本計画 第二章 審議会意見【第三回審議会R7.10.6】

施策	施策の柱	細施策	担当課	指摘事項	対応状況もしくは回答内容
施策2 豊かな心と健やかな体の育成	(1) 豊かな心を育む教育の推進	① 道徳教育の充実	教育指導課・教育センター		
		② 規律ある態度の育成の推進	教育指導課		
		③ 伝統や文化に関する教育の充実	教育指導課	・この表現と施策9に記載されている表現を合わせるべきである。	・施策9との整合性を図っていききたい。(「歴史、伝統」に変更。)
		④ 読書活動の充実	教育指導課・中央図書館	① 学校に学校司書を配置し、学校図書館の充実を図ります。とあるが、増やしていく予定なのか。 ② 現状と課題欄について、図書館の事業のみの表記だと感じるため、学校現場の事業についても何か記載できないか検討いただきたい。	① 増やしていく予定である。 ② 細施策シート修正済
		⑤ 体験活動の充実	教育指導課	・学校に協力している人が高齢化している。企業に任せることも検討していただきたい。	・企業の出前授業の活用を現在考えている。
	(2) 自己を肯定し他者を尊重できる心の育成	① いじめ防止対策の推進	教育指導課	・アンケート結果の「いじめは、どんな理由があってもいけない」と回答しなかった児童生徒が一定数いる。この背景をしっかりと見てほしい。その場合、この指標を使ってもいいのか疑問である。	・この一定数の児童生徒の背景については、教育委員会としても追加で調査を行っている。その中には様々な理由があるものだが、教育委員会としては、児童生徒全体に対しての働きかけという意図でこの指標を達成できるように目標を定めたいと考えている。
		② 「いのちの教育」の推進	教育指導課	① (1)①と同じ指標となっているが、この指標がこの細施策にあっているのか。 ② 現状と課題欄の二つ目「保護者の積極的な参加を呼び掛け」とあるが、何に参加を呼びかけるのか読み取れないのでわかるようにしてほしい。	① 「自分にはよいところがある」というものは、様々なエッセンスにて成長していくものとして、この指標にした。 ② 細施策シート修正済
	(3) 健康の保持増進と体力向上の推進	① 学校保健活動の推進	教育指導課	① いのちの教育と内容が重なっており、整理すべきだと考える。 ② 課題とそれに対する方向性がないと考える。 ③ 現状と課題について、「適切な解決に努めています。」は何を意図しているかわかりづらいため、別の表現にした方がよい。	① いのちの教育と内容が重なる部分もあるが、本細施策は学校保健活動を推進するための方向性等の視点で示している。 ② 細施策シート修正済 ③ 細施策シート修正済
		② 食育の推進	学校給食課・教育指導課	① 「小学校2年生だけでなく、」が唐突に出てくるので、説明を加えたほうがよいと考える。 ② 食育は全校で実施するものであるため、指標を変更することも検討すべきである。 ③ 学校栄養士との連携についても表現したほうがいいのではないかと。	① 「給食センター栄養士等が連携し」を入れるとともに他の教科でも食に関する指導と関連付けていくこととします。 ② 食育そのものは、全校で実施しているため、給食センター栄養士等が連携して実施した食育を指標とします。 ③ 細施策に表現させていただきます。
		③ 体力向上の推進	教育指導課		

施策	施策の柱	細施策	担当課	指摘事項	対応状況もしくは回答内容
施策3 自立する力の育成	(1) 進路指導・キャリア教育の充実	① 地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実	教育指導課	・記載事項は中学校での取組だけのように感じるが、小学校での取組は何かないのか。	・メインは中学校である。小学校においては出前授業もやっており、そのことも含んでいる。
		② 小学校・中学校・高等学校の系統的なキャリア教育の充実	教育指導課	・①と②は順番が反対の方がいいのではないかと。	・細施策の順番変更、細施策シート修正済
	(2) 主体的に社会の形成に参画する力の育成	① 主権者教育・消費者教育の推進	教育指導課	① 「将来」ではなく、今からではないか。 ② 「学校活動」ではなく「教育活動」が正しいのではないかと。 ③ 「啓発を図ります。」だけで問題ないのか。	①～③細施策シート修正済
		② 環境教育の推進	教育センター・教育指導課		

第四次川越市教育振興基本計画 第二章 審議会意見【第三回審議会R7.10.6】

施策	施策の柱	細施策	担当課	指摘事項	対応状況もしくは回答内容
施策4 多様な教育的ニーズに対応した教育の推進	(1) 特別支援教育の充実	①一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導や支援の充実	教育センター	・知的障害者手帳が取れないような児童生徒たちに対することでもここに明記していただきたい。	・「児童生徒一人ひとり」や「全ての児童生徒」には、療育手帳(知的障害者に交付される手帳)を含む障害者手帳を交付されていないが、通常の学級や特別支援学級での支援や配慮が必要な児童生徒も含まれていると考えている。
		②就学支援の充実	教育センター	①「就学支援委員会の意見と異なる就学をしたケースについては、」の前に、学校と連携してといった、学校もかかわっていることも記載していただきたい。 ②「ニーズ」という言葉はないので、「教育的ニーズ」に変更すべき。 ③就学支援委員会では、やらないような内容も記載されているのもう一度見直すべき。 ④就学支援委員会だけでなく、各学校の支援教室も含んだ施策にしていきたい。	①「就学支援委員会の意見」の中には学校からの情報も含まれているので、学校が関わっているものと捉えている。 ②「ニーズ」を「教育的ニーズ」に訂正する。 ③就学支援委員会だけのことではなく、「②就学支援の充実」という観点で幅広く方策を書いている。 ④支援教室(特別支援学級や通級指導教室等を指していると仮定)については「①一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実」や「③特別支援教育の理解・啓発の推進」の部分で含めている。
		③特別支援教育の理解・啓発の推進	教育センター	①「特別支援教育に対する理解には個人差があり、」という表現はいらないと感じる。 ②「特別支援に関わる人たちが、」は全職員ではないのか。 ③「特別支援教育に対して一定以上理解している」も表現として、伝わらないと考えている。 ④「交流学習、支援箱学習」等の表現も正しいか検討いただきたい。	①「特別支援教育に対する理解には個人差があり、」を削除する。 ②「特別支援に関わる人たちが、」を「全職員」に修正する。 ③「特別支援教育に対して一定以上理解している」を「特別支援教育についての知識や理解を深める」に修正する。 ④「交流学習」を「交流及び共同学習」に修正する。
	(2) 一人ひとりの状況に応じた支援	①多様化する学校内での教育的ニーズを解決する事業の推進	学校管理課	・学校の抱える課題が年々多様化、複雑化しており、という表現はこれでいいのか。	・「学校教育を取り巻く諸課題は、多様化・複雑化の一途をたどっており、」に修正した。
		②不登校支援の推進	教育センター	・「民間団体や民間施設を含む他機関、地域との連携を推進」は実現可能なのか。	・不登校親の会をはじめとした団体等との連携を考えている。
		③教育相談の充実	教育センター		
		④教育機会均等化のための支援	教育総務課・教育財務課		

第四次川越市教育振興基本計画 第二章 審議会意見【第三回審議会R7.10.6】

施策	施策の柱	細施策	担当課	指摘事項	対応状況もしくは回答内容
施策5 教育の質を高める環境の充実	(1) 教職員の資質向上	①主体的に自身の専門性を伸ばす研修の充実	教育センター・学校管理課	①指標が2つに分かれているが、一つにまとめたほうがわかりやすいと考える。 ②「主体的」という表現を使っているが、読んでいると主体でなく、強制的に研修をさせているように感じてしまう。主体的にできるような環境づくりが大切だと考えている。 ③学校、児童生徒、地域、社会的状況の「学校」とは何を指していくのか。この中に保護者は入ってこないのか。	①達成度のみの指標にする。 ②教師が主体的に取り組むことができるよう対話に基づく受講奨励の推進とそれに対応した研修体制の整備を細施策に記載している。また、専門研修自体が教職員が希望して受講する研修であるため強制的なものではないと考えている。 ③学校は主に教職員を指すため、保護者は入っていない。保護者のニーズは地域、社会的状況のニーズの中に入れていくと考える。
		②各キャリアステージに応じた研修の充実	教育センター		
		③喫緊の教育課題の解決に向けた研修の充実	教育センター	・「学力向上」「ICTの活用」「ふるさと学習」以外に生徒指導や教育相談も重要だと考えており、表現を入れることができないか。一他も大切だと考えており、今後の参考にさせていただく。	・特定研修は本市の喫緊の教育課題の解決に向けた研修であることからすべて重要であると考えているが、その中でも最重要として「学力向上」「ICTの活用」「ふるさと学習」としているため生徒指導・教育相談は表記していない。
		④教職員の働き方改革の推進	学校管理課	①「教育委員会と学校とが教職員の負担軽減についても研究する場をつくり」という表現はよいと考える。 ②「教員と専門性を持つ多様な職員等が協働し、チームとしての組織体制を強化することで、教職員一人ひとりの負担軽減を図ります。」という表現が簡潔すぎて、伝わらない。 ③教職員に向けたあたたかいメッセージとなるような内容にしていただきたい。 ④働き方改革では、人だけでなく、学校や教育委員会がやっていくことを整理することも大切だと考える。	②「SC※やSSW※等専門性を持つ職員等が」に修正しました。 ③計画のため、メッセージ等は不要と考えますが、教職員に向けて、教育委員会が何をすべきなのか、④のとおり明確にしました。 ④「子供たちへのよりよい教育を実現するため、教育委員会において、「学校以外が担うべき業務」や「教師以外が積極的に参画すべき業務」について、具体的な計画を策定し、実行していきます。」に修正しました。
	(2) 魅力ある市立川越高等学校づくりの推進	①市立川越高等学校の活性化・特色化の推進	学校管理課・市立川越高等学校	①「少人数学級編成」の「成」の漢字は、「制」ではないのか。 ②指標の年間5回とあるが、現状は何回くらいか。	①「少人数学級編成」でお願いします。 ②企業では、埼玉りそな、野村證券、JTBなど、大学等では、尚美学園大、武蔵丘短大などと連携。毎年、連携できるわけではないので、現状は3回程度であり、毎年5回を目標とする。
		②進路指導力向上のための教職員研修の充実	学校管理課・市立川越高等学校		
		③小学校・中学校・特別支援学校と市立川越高等学校連携の推進	学校管理課・市立川越高等学校	・市内生率については、なぜ削除したのか。	・市内生率は、毎年、変化する数値であり、より適切な表現としたため。
		④市立川越高等学校教育環境の整備・充実	市立川越高等学校		
	(3) 市立特別支援学校の充実	①市立特別支援学校の整備・充実	市立特別支援学校	①指標に保護者アンケートだけでなく生徒も入れていただきたい。 ②福祉教員免許の取得率についても、記載いただきたい。 ③市立特別支援学校については、長期的に見ていかなくはないことであり、市立特別支援学校だけでなく、教育委員会全体で考えていくべきことである。	①(市立特別支援学校) 校内でも検討しましたが、生徒の実態等を考慮すると、アンケートで生徒から指標を得ることは現時点では難しいという結論となりました。 ②(市立特別支援学校) 教育センターより、「取得率については、教育委員会としても向上させたいので、考えていく。どこかに記載できないか検討する。」との回答をいただいております。 ③(教育委員会全体) 市立特別支援学校の教育環境の整備・充実については、学校管理課を中心として、学校に任せることと市全体で考えていくべきことを引き続き整理、検討していきます。
		②市立特別支援学校のセンター的機能の充実	教育センター・市立特別支援学校		

第四次川越市教育振興基本計画 第二章 審議会意見【第四回審議会R7.10.27】

	担当課	指摘事項	対応状況もしくは回答内容
全体及び前回に係る指摘	教育センター	<p>・【施策4】 施策7-(1)-①に記載のある「こどもの成長・発達段階に応じた」という表現はとても大切であるため、施策4にもこの表現を追記していただきたい。</p>	<p>・(教育センター) 教育的ニーズには、児童生徒一人ひとりの「成長・発達段階に応じた」意を包含していることから、追記は考えておりません。</p>
	教育指導課	<p>・【施策1-(4)-①】 情報技術の活用という表現が新たに出てきているが、他の細施策でもICTの活用という表現もある。混乱してしまうのではないかと。今一度整理しても良いのではないかと。</p>	<p>・(教育指導課) 国等の表現を確認し、新たな表現として引用して使用している。</p>
	学校管理課	<p>・【施策5(3)①】 前回の審議会で意見した「③市立特別支援学校については、長期的に見ていかななくてはいけないことであり、市立特別支援学校だけでなく、教育委員会全体で考えていくべきことである。」という点について、特別支援学校の担当について、回答が調整中になっている。 自分たちで全てできる権利が与えられているが、記載を加えられないのであれば、何かしらフォローができる体制づくりをしていただきたい。</p>	<p>・(学校管理課) 市立特別支援学校の教育環境の整備・充実については、担当課は市立特別支援学校となっているものの、学校管理課を中心として、学校に任せることと市全体で考えていくべきことを引き続き整理、検討していきます。</p>
	事務局(全担当課)	<p>・【指標】 指標設定の根拠について、このようなまとめは、今後の質問への回答に活用できると考える。</p>	<p>・(全担当課) 指標設定理由及び目標設定理由に変更がある場合は、Excelシートを赤字修正することとした。</p>

第四次川越市教育振興基本計画 第二章 審議会意見【第四回審議会R7.10.27】

施策	施策の柱	細施策	担当課	指摘事項	対応状況
(1) 学校施設等の整備・充実		①小・中学校大規模改造工事及びトイレ改修工事の推進	教育財務課	①令和4年度に1系統目が完成したとあるが、この系統には、外トイレも含まれているのか。 ②系統という表現は一般的には伝わらないため、注釈等で説明が必要だと考える。	①令和4年度までに行った1系統目のトイレ改修工事は、校内を対象としたものである。外トイレについては、校内の残る系統の改修工事と合わせて、計画的に進めています。 本意見をふまえ、現状と課題では、「令和6年度より2系統目以降の改修工事に着手しています。」と標記されていますが、次のとおり改めます。 「令和6年度より残りの系統と外トイレの改修工事に着手しています。」 ②系統の注釈については、1章の注釈に記載されており、再度掲載はしないものと伺っています。 (参考:掲載内容) ※系統:トイレ改修工事において、配管工事を併せて改修する都合上、各校1階から最上階まで同じ位置にあるトイレのまとまりを一つとして数えたもの。
		②小・中学校重要設備の更新	教育財務課		
		③小・中学校空調設備設置の推進	教育財務課	事務局修正あり	・指標について、次期総合計画と現状値に乖離があったため、修正しました。
		④学校図書館の充実	教育指導課・中央図書館	①カリキュラムに沿った資料選定とは何か。簡潔に表現しすぎていてわかりづらい。カリキュラムに沿ったのではなく、カリキュラムに関連したなど、カリキュラムに完全に準拠しなくてよいのではないか。表現として「沿った」ではなくて、参考とした、等の表現の方が良いと考える。 ②学校の児童生徒が、図書館の本を読みたいとなった場合は、取り寄せられるのか。もしくは移動図書館のような取組があるのか。イメージできるような文章を補足しても良いのではないか。	①「関連した」と表現を変更し、施策シート修正済 ②「移動図書館は、以前は実施していたが、現在は廃止している。図書館の本の学校への貸し出しは、定期的に学校からテーマとして要望を受けており、その要望のあったテーマに係る本を図書館から送付している。」と、団体貸出の仕組みの説明として回答しましたが、補足すると、原則として依頼があった図書は、その都度、巡回車により学校に搬送しています。文章の追記については、現状欄「団体貸出を行っています」で表現していると考えます。
		⑤教育センター施設の整備・充実	教育センター	①現状と課題欄に、教育相談機能の充実とあるため、細施策の方向性欄にも教育相談機能の充実に関する表現を追記していただきたい。 ②方向性の1つ目に、学びが充実するようという表現があるが、この表現だと指標については、モニターが設置される等の学びの充実を目指す誤認されるおそれがある。	①教育相談の充実については、施策4にて記載しておりますので、本施策への追記については考えておりません。 ②「利用する教職員、市民が安心して利用できるよう整備運営を進めます。」に表現を改めます。
施策6 学びを支える教育環境の整備・充実	(2) 小・中学校の適正規模・適正配置	①小・中学校の適正規模・適正配置等の検討	学校管理課	・指標の説明に検討との表現があるが、既に施策として進んでいるものがあるが検討の表現でいいのか。	・「方向性を定めます」に修正しました。
	(3) 学校給食の充実	①給食内容の充実	学校給食課	①現状の三行目の、食物アレルギー状況の現状値が令和6年度のものだが、令和7年度の数値に変更することは可能なのか。 ②指標の説明の表現について、文章が長いので、整理することは可能なか。 ③アレルギー対応の人数を明記しているが、このことは不登校の児童生徒の希望となるため、よいことだと考える。よりしっかりと世間に周知していただきたい。	①細施策シート修正済 ②細施策シート修正済 ③細施策シート修正済
		②学校給食施設の整備	学校給食課	・方向性の二つ目の内容について、表現がわかりづらいため、表現を改めるべきである。	・細施策シート修正済
	①安全教育の推進	教育指導課	①方向性の内容について、小学校に対しては、この表現で問題ないと思うが、中学校に対する取組はどのようなものがあるのか、伺いたい。中学校は自転車の問題等もあるため、今後もしっかり考えていただきたい。 ②登下校以外の休日や放課後の安全の確保については触れなくていいのか。	①中学校については個別の登下校のため、具体的に実施している施策というのはないが、地域として見守っていくことが必要であるため、広報活動等で対応していきたいと考えます。 ②方向性の1つ目に含んでおり、各学校では、長期休みの前などに自分の安全を確保するための指導をしっかりと行ってまいります。	

第四次川越市教育振興基本計画 第二章 審議会意見【第四回審議会R7.10.27】

	(4) こどもたちの安全・安心の確保	②防災教育の推進	教育指導課	・細施策の方向性の二つ目に、保護者との連携や情報共有の方法に関する内容も追記していただきたい。	・細施策シート修正済
		③学童保育の充実	教育財務課	<p>①常時留守という表現があるが、現状、常時でないといけないのか、また常時の定義は何か。常時留守という表現だと誤解が生じてしまうと考える。常時留守について、注釈にて説明を入れるのが良いと考える。</p> <p>②他市だと民間施設も増えているが、川越市の現状を教えてください。</p> <p>③指標の目標が現行計画と同じ90%だが、同じでいいのか。</p> <p>④支援単位という表現はなにか。調べた限りだと注釈にある、「生活」という表現が一般的には馴染まない表現のため、表現・説明を再度見直していただきたい。</p>	<p>①常時留守という表現を、放課後等に保育が困難という表現に変更しました。</p> <p>②民間施設については、教育委員会外の部署で所管しているが、確か4か所あると認識している。また、所管する公設の学童保育室においては、配慮が必要な児童の状況等について、学校と密な連携をとって行っています。</p> <p>③職員の入れ替わりがあるため、入れ替わっても90%以上を維持していく指標としています。</p> <p>④「児童の集団の規模を示す基準のこと。」を「学童保育室で保育を行う上での児童の集団の単位。学校におけるクラスと同じ。」に変更しました。</p>

第四次川越市教育振興基本計画 第二章 審議会意見【第四回審議会R7.10.27】

施策	施策の柱	細施策	担当課	指摘事項	対応状況	
施策7 家庭・地域の教育力の向上	(1) 家庭や地域への支援	①家庭教育の支援	地域教育支援課	<p>①現在、PTAや育成会の成り手がいないこと等が、様々な問題につながっていることだと思うが、現状と課題の2つ目や方向性、指標に家庭教育講座や家庭教育学級の実施とあり、これが支援になると考えているのか。</p> <p>②家庭教育の中に、子育て相談も大切だと考える。そのため、他部局の福祉等との連携についてもここで触れたほうが良いと考える。</p> <p>③こども会育成会の成り手不足により、会自体が成り立たなくなってきた課題がある中で、その点を触れなくてよいのか</p> <p>④課題が大きなことについて記載されているのに対して、方向性や施策が、細かい一部の施策のみの記載となっている。課題に対して、組織的な大きな対応策も記載できるとよいと考える。</p> <p>⑤川越市社会教育委員協議会にて、市内に対する大きいアンケート調査を行っており、そこから抽出された本市の課題等も踏まえた内容も参考にさせていただきたい。</p>	<p>①家庭教育は非常に重要であり、保護者自身の教育や学習も欠かせません。保護者の学習機会の提供において、PTAが担当する家庭教育学級は大きな役割を果たしています。しかし、近年ではPTAが家庭教育学級を実施すること自体に負担を感じ、実施を取りやめるPTAが増加しています。PTAの弱体化は、保護者の学習機会の減少につながることに懸念されることから、PTAの負担軽減を図る家庭教育学級の運営方法等の検討が必要です。併せて、学習機会の提供方法を再検討し、家庭教育講座や家庭教育学級について支援することが実施を取りやめたPTAの保護者に対する支援につながると考えています。</p> <p>②細策シート修正済み 委員の方からは、幼児教育の分野についてご指摘いただきましたが、子育て、福祉、防犯等他部局と連携し、家庭教育力の向上を目指します。</p> <p>③④の質問事項は、「育成会やPTAが弱体化していく中で、組織的な支援を市としてどのように考えているのか計画に記載できないか」という指摘事項であったと把握しております。「②の社会教育関係団体の支援」にある通り、担い手不足について認識しています。育成会やPTAは外部団体であり、自主性のもとに運営されているため、計画に記載することは難しいと考えますが、保護者の負担軽減を考え、各施策を実施して行きます。</p> <p>⑤実際に施策を行う中で今後、参考にして事業を行います。</p>	
		②社会教育関係団体への支援	地域教育支援課			
		③地域の教育活動への支援	中央公民館			
	(2) 家庭・地域・学校の連携・協働	①コミュニティ・スクールの推進	学校管理課・地域教育支援課			
		②外部人材の積極的な活用	学校管理課	<p>・外部人材と地域人材は同じ意味なのか。混在してしまうので、整理するべきである。 地域という表現は慎重に使用した方が良いと考える。</p>	・地域人材という表現に修正	
		③学校評価の活用	学校管理課	<p>・現状と課題二つ目の「学校関係者評価の評価者等に対し」とあるが、この表現でいいのか。</p>	・細策シート修正済	
		④家庭・地域・学校の連携推進	地域教育支援課			
		⑤放課後子供教室の推進	地域教育支援課			
		⑥学校部活動の地域連携・地域展開	教育指導課	<p>①現在人が足りないという声を聞いている。その中で全部の部活動に人材活用を努めるとあるが、難しいのではないかと考える。この部分の表記はより丁寧にするべきだと考える。 教職員や児童生徒、保護者が安心できるような内容となるように表現をしていただきたい。</p> <p>②現在、部活動は、1校だけでなく、複数校で行っている学校はあるのか。</p> <p>③川越の「地域展開の方向性」がどのようになっていくのかを触れないまま、「人材の不足」について記載しているが、それでいいのか。</p>	<p>①細策シート修正済</p> <p>②現在協議を行っている。</p> <p>③細策シート修正済</p>	

第四次川越市教育振興基本計画 第二章 審議会意見【第四回審議会R7.10.27】

施策	施策の柱	細施策	担当課	指摘事項	対応状況
施策8 生涯学習活動の推進	(1) 市立公民館の充実	①ライフステージにおける課題や現代的課題の学習	中央公民館	・企業と民間事業者等の似ている表現があり、現状と課題や方向性の表現がわかりにくいと感じる。	・企業と民間事業者という表現が似ており、わかりいため、指標について「民間事業者、NPO等」⇒「地域団体やNPO、企業など」と修正します。
		②生涯学習活動の拠点としての公民館運営	中央公民館	①細施策の方向性の3つ目に、指導者として、コーディネーターとしての公民館の職員とあるが、どのような意味なのか。 ②方向性の二つ目に居場所づくりとあるが、このことは大切だと考えるため、しっかり取り組んでいただきたい。 ③公民館の学習室は大切な場所だと考えているため、使い方については、様々な児童生徒からの意見を取り入れて今後もやっていただきたい。	①公民館職員の勤務年数が少ないのが現状であり、腰を据えての職務ができていない部分があるため、研修等でコーディネーターとしての意識を考えさせる必要があるという意図で記載している。 細施策シートについては、修正なし
		③公民館の設置及び既存公民館の整備	地域教育支援課・中央公民館		
	(2) 市立図書館の充実	①資料の充実	中央図書館	①現状と課題の一つ目、古地図は現行計画と同じ。 ②博物館も含めて、他の施設との連携や、資料のすみわけ(どの施設に置くのか)について、記載があると良いと考える。	①現状説明欄のため修正なし ②デジタルアーカイブを含め、博物館との棲み分けと連携は今後の課題と捉えています。(修正なし)
		②読書環境の充実	中央図書館	・細施策の方向性の3つ目、図書館遠隔地における施策について、具体例が見えてこないため、補足が必要だと考える。	・(補足)各施設との連携のほか、電子書籍の推進も含んだ、利便性の向上と考えています。 ・(追記)公民館等と連携し: 施策シート修正済
		③学習活動の支援	中央図書館	①学習機会の創出という表現があるが、個人のことなのか、提供側のことなのかかわからない。下の文章の表現と合わないと考える。 ②指標の回数というのがわからない。現在の表現だと伝わらないため、指標説明欄について表現を改めるべきである。	①●1: 提供する ●2: 多様な学習意欲を喚起するため、いずれも施策シート修正済 ②説明欄 全館における月1回のテーマ展示、文学賞展示及び追悼展示等、資料展示の実施回数 施策シート修正済
		④図書館サービスの充実	中央図書館	①社会ニーズや市民ニーズという表現があるが、社会ニーズという言葉は適切か。 ②自治体という表現は正しいか。	①、②「社会情勢に応じた、また市民のニーズを捉えたサービスを行うため、他自治体、関係機関…」に変更しました。 細施策シート修正済
	(3) 市立博物館の充実	①展示機能の充実	博物館	①現状と課題や細施策の方向性の「興味を持ってもらえるよう」という表現はより適切な表現がないか。 ②来館者の増加に向けた具体的な施策は何か。来館者増のための方向性を記載しても良いのではないか。	①細施策シート修正済 ②基本的には、来館者の増加に一番影響があるのは、展示の充実だと考えている。その他の充実については、工夫した上で実施しているところであり、増加に向けて取り組んでいる。
		②郷土資料の収集・保存	博物館		
		③教育普及事業の充実と学校教育との連携強化	博物館	・学校との連携という点について、何年生が博物館に行くのか。	・3年生と6年生は全校が来ている。 取組については施策9に記載させていただいている。
		④博物館の整備	博物館		
	(4) 人権教育の推進	①人権教育の充実	地域教育支援課		
②人権教育指導者の養成		地域教育支援課			
③関係機関・団体等との連携		地域教育支援課			

第四次川越市教育振興基本計画 第二章 審議会意見【第四回審議会R7.10.27】

施策	施策の柱	細施策	担当課	指摘事項	対応状況
施策9 文化財の保存と活用	(1) 文化財の保存と活用	①文化財の保存と活用の推進	文化財保護課	・活用のターゲットはどこなのか。活用はどのような形で進めていく予定なのか。	シート修正済み 活用を一緒に行うターゲットは、地域の人々や民間所有者、企業等を想定している。活用の進め方は、各文化財ごとに活用の計画が異なるため、一概に全体的なことは言えないが、個別には適宜見直しを図って進めたい。
		②無形民俗文化財の保存と後継者の育成	文化財保護課		
		③重要伝統的建造物群保存地区の保存整備事業の充実	都市景観課	①方向性の三つ目にアプローチ手法という表現があるが、この表現は適切なのか。 ②活用を進めることは当然重要であるが、防災に関しても重要である。そのため、細施策の方向性2つ目について、補足をするなど表現を厚くしてもよいのではないかと。また、活用者が火災を起こさないような取組も必要でないか。	①細施策シート修正済 ②細施策シート修正済
		④河越館跡の整備・活用	文化財保護課		
		⑤山王塚古墳の整備・活用	文化財保護課	・国の史跡に指定されているとあり、維持管理が大変だと感じている。活用については細施策の方向性の1つ目記載の通り「早期に史跡の保存活用計画を策定」していただきたい。	シート修正済み ・保存活用計画を早期に策定した最終的な目標が、史跡整備の実施であることがわかるように表現を修正しました。
	(2) 地域の歴史や伝統文化の継承	①地域の歴史遺産の「発見」	文化財保護課	・細施策の方向性に「発掘調査の成果を公開」と記載があり、成果に対して②の表現と違う(資料の提供について検討を進めます。)が、なぜか。	・現状の取組に合わせて表現を変えています。シート修正なし。
		②地域の歴史・伝統文化の継承に向けた学びの促進	文化財保護課・博物館		シート修正済み ・①の指摘を踏まえ、「文化財調査等で得られた成果を提供する」と修正しました。